

藤沢

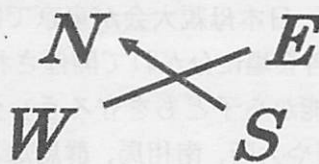
エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議

(略称) 藤沢エコネット

2013年9月1日

第232号



- 主 事
- ・ 福島の子どもの甲状腺検査ちゃんが行われているか?
 - ・ 原発・放射能汚染から子どもを守ろう
 - ・ かながわ女性センターの移転に要請書
 - ・ 放射能測定値 ・ 石けんまつり

http://members3.jcom.home.ne.jp/fujisawa_econet/

事務局 〒252-0816 藤沢市遠藤 849-9 青柳

☎/FAX 0466-87-4922

e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp

「2013夏ふくしまっ子リフレッシュ in 湘南」を終えて

第3回目のふくしまっ子リフレッシュ in 湘南が行われた。福島の子ども19人(3歳児4人を含む)と母親の計29人が藤沢と横浜のこどもの国で4泊5日を楽しんでいただいた。この夏、各地区・団体でも福島の子どもたちを招き保養活動がたくさん繰り広げられた。1回に招待できる人数はそんなに多くはないが、いろんな団体が行っていることはうれしい。3回目の今回は主催もかなり慣れてきたので前回の反省点も考慮しながら行うことができ、福島の親子がリフレッシュして帰っていただけたと確信する。

南相馬は放射線量がかなり高い所で生活していて、外遊びにも時間制限の日々を送っている。福島原発事故から2年半が過ぎ人々の中でだんだん薄れているように感じられるが、もっと現状を知らされるべき所である。「子どもたちを放射能から守る」ことが重要である。事実、福島の子ども18人が甲状腺がん(疑いのある人はもっと多い)になっているが、以前からできていたとの否定的な見解をする人もいる。

29人はバスで藤沢に着き、一休みしてすぐ江の島灯台見学に出かけ商店街での散策も楽しんだ。藤沢では1泊だけの日程であり、翌日は舟で岩屋見学の予定であったが雨天のため出航せずとの連絡で、急速江の島水族館へ行ってイルカショーなど楽しんだ。午後はこどもの国へ向かい3泊を過ごした。夏はプール遊びができ、他にも遊具ありポニーや小動物もいるので、小さな子どもにも楽しめた。夜は、折り紙やスイカ割り、花火などで思い出作り、親子いっしょにリフレッシュできたと思う。

スタッフとボランティアの力を合わせた保養受入だった。費用は引き続き募金を訴えほぼ目標に達した。募金が集まらなかったら!と不安な日々であったが、あたたかい募金を寄せて下さった皆さまに感謝申し上げます。これから先、長く続けるためには、と相談会では「サポーター募集」を行い、毎回のサポートをお願いしたいと話した。本来は東京電力と国に費用負担して欲しい活動であるが、とにかく放射能の危険を避けるためには福島から遠くで生活することだ。顧問の日大の糸長教授は飯舘村の復興活動を続け、いろいろな情報を下さる。飯舘村や南相馬の放射線量は高く、幼い子どもが生活してはいけない場所であることを知っていただきたい。

ともあれ、今回の保養受入に後援いただいた藤沢市をはじめ、ご協力くださった方々に厚くお礼申し上げます。この保養活動がどれほどの役に立っているかは読者の皆様に考えていただきたいが、少なくとも高線量の放射能で毎日を自由に過ごせない福島の現状では保養受入も意味のあることと思う。

(福島の子どもたちとともに・湘南の会 荒井)



カワセミの巣立ちビナ

日本母親大会分科会

「原発・放射能汚染から子どもを守ろう」

8月24、25日、日本母親大会が東京で開かれ、分科会は2日目、各会場に分かれて開催された。

「原発・放射能から子どもを守ろう」分科会は約100人以上、長崎や大阪、南相馬、群馬など全国から集まり、多くの発言が発表された。前半は各地からの問題提起、後半は谷川智行氏（東京民医連、中野共立病院）の助言を得て、要求をまとめた。

松戸市からは、ホットスポットの公園があり、除染して下がったが、2年後また上昇している。除染除染と国はやっているが、結局除染は無理なのではないか、住めないところならば、移住すべきと考えるという発言があった。それに関連し、子どもだけを移す学童疎開のような考え方があるが、それはメンタル面など心の問題でリスクがあるとの意見が出た。

南相馬市から避難している人は、福島の家は除染して毎月測っているが、屋外は1.23マイクロシーベルト毎時から0.71に下がり、室内は0.5で、まだ生活してほしくないレベルだが、生活せざるを得ないでいる。市は地産地消を推奨しているが、しっかり放射能測定していない。子ども被災者支援法ができたが、自主避難者と残った人、両方の支援が必要だ。

谷川智行氏からの報告で、今年8月20日に福島県民健康管理調査検討委員会の発表があり、18才以下の36万人対象で甲状腺ガンと確定した人は2011年9人疑い4人、2012年は確定9人疑い21人。2013年は確定18人疑い25人だった。子どもの甲状腺ガンは良いガンは進行が遅く転移は少ないと福島医大の鈴木真一氏は言うが、チェルノブイリの場合、甲状腺ガンが小でもリンパや肺に転移しているので、最大限に注意が必要である。鈴木氏は4年以降に増えるというが、チェルノブイリでは大規模調査が始まったのが4年後である。

Facebookにのせてあるが、東京民医連では福島から東京に避難している人たちに無料で放射能検査をした。また、保養で来た人も無料でおこなった。関東圏の避難者も1万円で検診できる。東京電力と国に検診料を払わせる運動をする。

1959年WHOとIAEAは協定を結び、WHOはIAEAの承認なしに公表や調査をすることができない。

学ぶべきはチェルノブイリ、広島、長崎と公害の歴史であるとの示唆があった。（青柳）

県立のかながわ女性センターの移転について 図書館と一体となる移転を求める要請書

現在、県がすすめている緊急財政対策の中で、県立かながわ女性センター（以下女性センター）の移転・規模縮小の方向が検討されています。

国際女性年を受け、女性の自立と社会参加を願う県内の女性の運動の高まりの中で女性センターは1982年11月に女性の自立と社会参加を促進するための施設として開館しました。その中でも全国から注目されたのは女性に関する専門図書館が併設されたことです。

設置から30年を経た今では蔵書は約10万冊になっています。また、戦前・戦後の女性運動の歴史を学ぶ上で貴重な資料である「山川菊江文庫」があります。県のホームページでも「女性センター図書館は女性に関する専門図書館として「読む」「知る」「学ぶ」あなたの知的探求をバックアップします。女性問題・女性労働をテーマとする図書を中心に男女共同参画社会作りに役立つ資料・情報を集めています。情報を通してジェンダーにとらわれない自分らしい生き方や働き方を見つけるお手伝いをします」とあり、名実ともに女性センターに来れば女性問題の解決の糸口が見つかるという、県民の財産でもある貴重な場ともなっています。

そのことから、女性センターと図書館が別々の場所では密な連携もとりにくくなり、男女共同参画行政をすすめていくには、現行の体制よりも大きな後退となることは否めません。しかも移転先によっては、女性に関する専門図書館としての位置づけが薄められはしないかとの懸念があります。女性センターと図書館が一体であってこそ、男女共同参画推進のための拠点としての役割が果たせるものと考えます。

また、女性センターの移転先のスペースが狭く、専用で利用できる会議室もなく、これでは県民女性の自主的な交流・活動支援の場としての機能が無くなってしまいうという問題があります。私たちは、女性行政の後退を許すわけにはいきません。私たちは、女性センターの移転に当たっては次のことを要請します。

1. 県立かながわ女性センターの移転にあたっては、図書館と一体となる移転とするよう検討すること。

神奈川県知事 黒岩祐治 様

2013年8月26日

かながわ女性センターを良くする有志の会

福島県の甲状腺検査はちゃんと 行われているのだろうか？

白石草さん（ジャーナリスト、非営利のインターネット放送局 OurPlanetTV を設立）のあまり知られていない内容の講演を紹介します

▲福島県民健康管理調査の甲状腺検査が公開されていたり、報道されている部分があんまりない。出だしは2011年5月13日福島県の主導で、国の省庁も呼んで、毎日新聞で「秘密会」というのが報道された「秘密会の秘密会」みたいなものが開かれていた。

この時に、福島県側が「自分たちで健康調査をやりたい」と主張して、そこまでの時点は、実は国側は文科省を中心に国が健康調査をするつもりでいた。それから、検査の目的のところに血液で「生体試料の長期保存」が調査の目的に入っていた。それが13日になるまでに消えてしまい、今の原型となるような福島県民健康管理調査の枠組みができたという流れになった。

そのなかで実際にスタートしたのが2011年の10月から。甲状腺検査は「こんなに大勢の甲状腺検査をやるなんて無理だろう」といわれていたが福島県立医大が、強引に「やれる」という事で積極的にやった。

▲1日5班体制で、医師か技師が検査、5人の中の最低一人は医師。大体少なくとも600人～900人ぐらいを1日に検査し、12年3月1000人を超えていた。1日に単純計算すると一人当たり1分。どう考えても、人が残り医師や技師が足りない日がある。技師は、患者と話をしてはいけないが医者は話ができる。たとえばのう胞がありますか？といっても、医師じゃないから答えが出来ない。判定会は週に1回1時間、この県民健康管理調査の甲状腺検査の取りまとめをしている責任者である鈴木眞一先生は、特に小さいお子さんの場合は、動いたりなんかして本当に10秒で診断。

おまじない的にやっている。

▲判定会でB判定よりも、一番彼らが神経質になっている人たちは誰か？それは「情報公開請求をしている人達」。その後セカンドオピニオンを受けたりして口うるさそう。なにか文句を言われたらひとたまりもない、情報請求している人たちの情報がまず優先されている。対メディア対策の話ばかりで、あまりにも医師が足りない。

▲福島県民健康管理調査というのは、非常に専門的な、医師がやっているの、他の

（低放射線都市ふじさわをめざして）

人達は変わりがきかないから、「ハイレベルなもので」という事があるけれど、実際には「やりながら覚えればいいから」とか、「専門的じゃない医師に段階を踏ませてやらせていけば大丈夫」みたいな事を議論していて、山下俊一さんの後釜の阿部さんはその事態を重く見て「必ず誤診が起きる」という。そのため医療賠償責任保険に加入され目的は訴訟から医師を守るためだ。

甲状腺がん「多発」の問題について

▲現在44人が甲状腺がん悪性・悪性疑いで公表されている。乳頭がんも18例ある。悪性は判断しやすいが「悪性疑い」は悪性も含めて報道しているが別物である。

▲津田敏秀教授（岡山大学大学院 疫学専門）にインタビューで。2011年度の検査対象だった人たちの中から3人の甲状腺がんの子どもが診断されたという結果。放射能とか原発の事故が無ければ、「原因不明の多発」で、甲状腺がんというのは、割と「死なない」、手術をしてその後薬を飲み続けるわけだから、重大な病気で、そのまま放置できないから、調査をしなければいけない。その調査を考えるような「多発」である。

「因果関係が無い」という事の理由探しをしているように見えるとの見解である。

「大人もきちっと検査をしていかなければいけない」

▲大人を対象にすることは、事故当時18歳未満という対象しか現在は全く検討していない。子どもと違ってついでにお母さんも検査すると「お母さんの方がひどい」というケースは結構聞いている。大人も非常に心配、きちっと検査をしていかなければいけないと思う。被ばくを隠したいという心理も働くので地元では医療を受けないで、こっそりと関東圏に来て手術をしてなかった事にすることもある。

▲伊藤病院で手術を受けるのがいま半年、1年待ちになっているらしい。「そこまで混むのかな」というのを含めてものすごく患者さんが増えているし、甲状腺のものととの橋本病とかバセドウ病の人が悪化している。

▲普通の病院の平均が15.4mmで「あの大きさになるには数年かかるはずだから今発見されているのは事故の前に原因があるんだ」という、言い方をしている。甲状腺は体の機能、成長とホルモンを司るもので、そのところを、被ばくはしているわけだから、それを考えなければいけない。（文責 日比）



石けんまつり

「石けんまつり」が行われ、子どもたちが「こねこね石けん」を作っていました。8/22 藤沢市石けん推進協議会主催のイベントで、石けんの販売や身体に良い品を展示、即売がありました。

紙芝居はきれいな水が入った水槽を引地川上流に見たて、次々に台所排水やシャンプー排水、洗濯排水、トイレ排水などのサンプル排水を入れていき、濁った水になって下流に行きます。その様子が紙芝居で説明され子どもも大人も楽しく学べる場でした。やがて海へ出て汚れた水はサーファーの身体をむしばむ結果となり、合成洗剤の怖さをリアルに伝えてくださいました。

石けんを使うと水がきれいに保て環境に良いことがわかります。藤沢市の学校給食や公民館施設などでは台所石けんを使っています。これも、「石けんを使いましょう」との運動で「合成洗剤」を使わずに安全を保っています。改めて合成洗剤の怖さを知らされました。

(日比)



放射能測定値

福島（南相馬）で測定した値をお知らせします
測定(ALOKA-TCS172B) 単位($\mu\text{Sv/h}$)

測定日8月4日～5日

郡山駐車場	0.82	(地上100cm)
福島駅	0.08	(5cm)
飯館村バスの中	0.32	(膝の上)
南相馬市原町駅前	0.21	(100cm)
〃原町民家菜園	0.3	(100cm)
南相馬小高区 公園	0.09	(5cm)
〃 小高区道の駅 雨樋下	0.4	(50cm)
〃芝生の上	0.38	(5cm)
〃原町運動公園	0.15	(5cm)
〃原町第1小学校通路 歩道橋下	0.31	(5cm)
〃 西側通路	0.29	(5cm)
南相馬市役所入り口	0.3	(5cm)
原町第2小学校入口	0.21	(5cm)

(基準は0.23 $\mu\text{Sv/h}$ 以下)

ECONET INFORMATION

第46回 みんなの消費生活展

東日本大震災忘れないために 復興支援
展示 物販 被災地支援の食材料理試食
手づくり O×クイズなど盛たくさん!

9月7日(土) 10:00-17:00

8日(日) 10:00-15:00

場所: 湘南台公民館

主催: 藤沢市 実行委員会

0466-50-3573



映画「わたされたバトン～さよなら原発～」

原発の是非をめぐって新潟県巻町の町民の

たたかいのドラマです

9月27日(金) ①10:30～ ②14:00～ ③19:00～

藤沢市民会館小ホール

前売券 1000円(当日 1500) 高校生以下 800

申込み 090-1265-0282 斎藤 090-9239-0864 島田

平和のつどい

講演 「チェルノブイリで 福島で 私たちの町で今
何が起きているの?」 牛山元美医師

10月5日(土) 9:50-10:50

山内地区センター3Fホール(田園都市線。市営地下
鉄あざみ野駅3分) 参加費 300円

藤沢エコネットから

会費・購読料の納入お願い致します

ゆうちょ銀行(9900) 店番(029)

当座預金 0046501 77777777

(従来の振込方法も利用できます)

会員募集 年会費・購読料→3000円

事務局会議 9月14日(月) 14:00-

市民活動推進センター



《編集後記》まだ続く猛暑の夏。温暖化の影響で、異常気象が日常化しているようです。地球温暖化問題に日本はもっと腰を据えなければなりません。

「ふくしまっ子リフレッシュ in 湘南」では皆様から暖かいご支援をいただき、大変ありがとうございました。事務局有志はこれからも支援に関わっていきますので、よろしくお願いいたします。(A)